（別紙4）　　平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2775802206		
法人名	明日香シニアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム明日香の里 （2階）		
所在地	大阪府大阪市平野区加美北4丁目7番10号		
自己評価作成日	平成27年3月17日	評価結果市町村受理日	平成27年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　MIRO谷町　4階
訪問調査日	平成27年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1、毎月のイベントの開催や、季節に応じて外出の機会を設ける等、日々単調な生活にならないように、季節感も取り入れたサービスを提供している。
2、家族との絆が大切であることを職員全員が意識し、日々の様子や状況を家族へ伝えると共に、家族の意向や思いを汲み取り、ケアに取り組むように心がけている。また、入居者自身の思いも汲み取る為、日頃出来るだけ多くの対話を持つようにしている。
3、職員全員が笑顔を大切に思い、日常多くの笑顔が生まれるようにケアに取り組んでいる。
4、入居者個々の生活リズムを大切にし、心身ともに活発に無理なく活動できる時間を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

高齢者向けの地域資源の一環として、平成１８年に開設されたグループホームである。開設して９年が経過し、地域との交流も進んでいる。年末のホーム行事である餅つき大会に、大勢の地域住民が参加し大盛況であったとのことである。ホームに一歩入ると、共用空間や居室が清潔に保たれ大層広く感じる。職員についても殆どが正社員であり、かつ介護福祉士でもあり、経営法人として働く意欲を引き出す努力がみられる。利用者については、要介護4が3名、要介護5が6名おり、介護度も高くADLも低い。この方々は移動については全員車いす対応であるが、職員全員知恵や工夫を出し合い、理念通りの介護に励んでいる。医療への対応についても厚く、協力医療機関の往診は当然、心療内科（認知症専門医）の往診や他科（眼科、皮膚科等）の受診も家族共々支援し、家族に安心感を与えている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに事業所理念を揚げ、全職員が共有し、実践できるように努めている。また、新人研修の段階で理念を紹介し、具現化と実行に向けたケアに取り組んでいることを理解してもらっている。	当ホーム独自の理念として、「健全な運営、癒しの環境、より良い介護、我が町の和を共に」と簡潔にまとめ各フロアに掲示し、家族にも理解して頂き、職員もその実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは散歩等の外出時に挨拶をする等、日常的な交流を大切にしている。また、地域行事へ積極的に参加すると共に、年末には事業所の行事に地域住民を招き、交流を深めている。	民生委員の紹介で、地域行事（加美北祭り、ふれあい喫茶等）に参加し地域住民と交流している。ホームでも年末の餅つき大会、バザー等を催し地域住民を招待している。ボランティアや中・高校生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者や電話での問い合わせには、入居に関すること以外でも気軽に相談出来るような対応を心掛けている。また、広報誌を地域の掲示板に掲示させてもらい、事業所内のイベント等々を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の様子やケアの内容、催し等を具体的に報告すると共に、生活上での要望や今後のケアの方向性を相談している。又、地域ネットワークの意見も積極的に取り入れサービスの向上を目指している。	行政からは地域包括支援センター、地域からは民生委員の参加があり、現在は3ヶ月に1度開催している。しかし、肝心の利用者家族の参加が少ない。	議事録についても、家族が分かり易い文章で作成し、各家族には必ず送り、参加を促すような努力が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回、運営推進会議には地域包括支援センターから出席してもらい、様々な情報やサービスに対するアドバイスも頂戴している。	近くに地域包括支援センターがあり、連携がよくとれていて、困り事や分かり難い事例については相談にのって貰っている。市主催の研修会についても受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止についてマニュアル化し、定期的に研修を実施している。また、日中1階玄関の鍵は開放しており、建物外に出る入居者には職員が同行し、ストレスや圧迫感の開放に配慮している。	身体拘束の弊害については、職員研修を徹底し、現在は身体拘束の無いケアが実現できている。昼間玄関は施錠していないが、交通量の多い道路に面しており、見守りケアを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、身体的虐待だけでなく、心理的虐待にも重点を置き、職員に周知させるように働きかけている。また、日々のケアでも、主任と管理者が細かくチェックすることで予防している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修会を通じて、学習する機会を設けている。また、後見人制度については過去に家族より質問を受け、情報提供をしたことはある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、改定時のみならず、日々積極的に家族へ声を掛け、疑問や要望等の意見を尋ねるようにしている。また、疑問点に関しては十分納得のいくまで話し合うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族と積極的にコミュニケーションを図っている。寄せられた意見等は毎日の申し送りで、介護職員・事務職員・代表者まで全員が意見を把握し、迅速に対応するよう行っている。	利用者からは、普段の何気ない会話や入浴時等職員と1対1になる機会を活用して、意向や要望を聞き出す努力をしている。家族からは来訪時や、家族参加（招待）行事を年2回行っており、その機会にも意見・要望を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング等、意見を出せる場を作っている。また、管理者は現場にいる時間を多く持つことで、業務の具体的な問題点や介護職員の考えを聞き出し、改善に向けた案はフロア主任と相談し、決めるようにしている。	働く意欲の向上やサービスの質の向上を目指すため、フロア会議やミーティング時に意見を聞き出す努力を行っている。管理者も意見を言い易い雰囲気作りに務めている。介護福祉士の資格を取得したい職員に対しては、シフト面で支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も職員個々の実績や勤務状況は把握している。また、職員がより働きやすい環境にするにはどうすれば良いかは、毎月の運営会議で話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修は定期的に行っているが、施設外での研修への参加機会は多くはない。しかし、各自のスキルアップに繋げることができるように、随時社外研修の紹介は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に代表者が他事業所を訪問し、情報交換を行っている。また、そこで得た情報等は、ミーティングで報告し、各職員に伝達している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報収集の重要性を理解し、本人の意向を含めた現況を聞き取り記録している。また、入居後まずその方を知るという観点を大事にし、新たな環境に馴染み安心して生活できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族から困っている事や、不安な事を聞き出すようにしている。又、不安な事は早急に解消できるよう努めている。入居後はこまめに状態や様子を報告し、良い関係作りに繋がるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族との話し合いの中で、まずは今必要な支援は何かを共に考え、ケアやサービスの提案もしている。また、いつでも他のサービスを導入・変更することができることも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者の関係は、介護する側と介護される側という関係性ではなく、共に生きる家族と捉え、必要な範囲においては気兼ねなく付き合える関係を築くよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、入居後は職員と共に入居者を支えていくが、家族にしかできないことや、家族との絆はこの先も切れることがないことを理解してもらい、職員・家族が協力し合える関係性を築くよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みのある人達への面会を呼び掛けたり、身体的に外出が難しくなった場合は、写真や会話の中から、本人の思い出や記憶を一つでも多く引き出せるように努めている。	地域社会との窓口と考え、自宅近隣の方や馴染みの友人・知人との面会は支援している。又、電話の取次ぎや賀状を出す支援もしている。馴染みの場所としては、お店や墓参り等があり、家族に同行をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティや行事、日常の談話にも職員が入居者同士の間に入ることで、関わりが継続することも多い。また、対人関係の気づきも記録し、本人の居心地の良い関係作りに日々努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居後のサービス利用後も見舞いや面会に行く等し、継続して支援の必要がないかを問いかけている。また、死亡の場合は、通夜や告別式に参列し、家族との関係も断ち切らないように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初に生活の意向を家族と共に確認している。しかし、言葉で希望・要望を伝える事が出来ない方には、家族の意向も踏まえた上で、日常の動作や表情から気持ちを汲み取るよう努めている。	可能な限り自宅は訪問し、生活歴、生活環境、楽しみ事、ADL等を把握し、基本情報にまとめスタッフ全員で共有している。入居後も、スタッフが利用者の現状を細かく観察し、業務日誌や生活記録に記入し、全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からも生活歴等の情報を収集をすると共に、在宅でのサービス利用状況を確認し、可能な限り居宅介護支援事業所の担当者と連絡を取るように努め、その情報も職員皆で共有・活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録を全職員が確認し、また密に申し送りをする等、入居者の生活パターンから心身状況までをも把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者及び家族の意向を重視した上で、関わる中での気づきや変化を組み入れ作成している。また、状態変化時には家族に意向の再確認を行い、現状に即したケア・介護計画であるようにしている。	最初の基本情報やフェースシートを参考にして、ケアマネージャーを中心に担当者会議を開いて本人本位のケアプランを立てている。モニタリングは3ヶ月ごとに行い、ケアプランの追加や変更については、原則6ヶ月ごとに検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間表記の生活記録を取り、職員間の情報共有に活かすと共に、状態変化や嗜好の変化等も踏まえ、介護計画作成の要素としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生まれ変わるニーズに対応できるように、日頃からさまざまな情報を収集し、あらゆる視点からの観察もし、支援するように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターやボランティア等と協働し、地域との交流機会が持てるよう努めている。また、定期的に音楽ボランティアの方々に来訪してもらい、入居者と共に歌を楽しむ時間も作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの連携医療機関がグループ会社である為、心身の変化や異状発生時にも気軽に相談し、迅速な対応ができるよう関係を築いている。また、心療内科や歯科の往診も受けられ、都度相談ができる。	入居時に、本人・家族の意向に沿って、かかり付け医を決めている。ほとんどの利用者は、連携医療機関をかかりつけ医とし、利用者全員が健康チェックとして、月1回は内科医の往診を受けている。しかし、体調不良等の問題のある方は月1回以上の往診を受ける場合もある。歯科は週1回往診があり、健康維持には万全を期している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員も毎日の申し送りに参加し、介護職員からの情報や毎日の生活記録から個々の入居者に適した医療的サポートを見出し、受けることができるように支援している。また、かかりつけ医にも随時報告してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にかかりつけ医より情報提供を行い、職員からは日常生活についての情報を提供している。また、入院中は面会へ行き状態の把握に努めると共に、早期退院に向けて病院担当者と密に連絡を取るように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には入所時に重度化・終末期に関する説明をしているが、病状の進行や変化時等、必要な場合には再度説明するようにしている。また、本人と家族の意向を踏まえた方針を全員で共有、支援できるように取り組んでいる。	入居時に、利用者が重度化した場合の介護の方針を明確に説明し、当ホームでは、介護には限界があるので、家族の希望があれば、限界までは介護に全力を尽くすが、終末期には看取りはできないことを告げ、病院を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応については定期的に法人内研修を実施している。また、マニュアル化し、いつでも書面で確認できるようにもしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害等については定期的に法人内研修を実施し、年に2回は隣接されている有料老人ホームと合同で避難訓練を行い、避難経路等の再確認を行っている。	災害マニュアルを作り、研修を行ない、消防署の指導の下で、消火、避難訓練を年に2回実施している。各種消防設備も完備しており、非常用備蓄品の準備もできている。しかし、夜間想定訓練が不十分である。	災害の種別ごとのマニュアルを作り、夜間想定の避難訓練が望まれる。夜間一人勤務を想定した訓練を、夜勤従事者全員が体験するまで、回数を増やして実施することが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア主任が中心となり、認知症高齢者への理解や学習をするよう推進している。また、個々の理解能力に適した言葉掛けや対応、目線等にも日々留意し、関わるようにしている。	職員は、日々の生活の中に笑顔を忘れないように、優しく寄り添う介護に努めている。接遇の研修を定期的に実施し年長者に対する尊敬とプライバシーを損ねない態度に満ちている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の様々な場面で、本人の気持ちや考えがあっての行動になるように、選択肢を提供するようにしている。又、言葉で選択できない方には、表情や感情に注意し、思いを汲み取れるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意向を最優先し、個々のペースに合わせた介護を提供しているが、その日の体調や気分の変化等も踏まえて、一人ひとり、その時々のペースに合った生活を送れるように留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や起床時等では、入居者本人に服装を選んでもらっている。又、自己決定が困難な方には、好みを家族に尋ねたり、昔の写真をみせてもらう等し、その方らしい見だしなみを提供できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や後片付け等は職員と一緒に行っている。また、行事としておやつ作りや食事作りを行い、入居者と職員とが一緒に作る機会を定期的に設けている。	食事は、ご飯と汁物を除き、業者の献立による調理済みの料理が配達され、これを加熱等して、盛り付け、配膳している。利用者も能力に応じて手伝っている。おやつや行事食の時には、好みのものを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録に残し、職員が状態を把握できるようにしている。又、個々に適した食事形態で提供し、栄養の偏りがある方には家族にも相談し、嗜好品を差し入れてもらう等も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを実施している。また、週に1度歯科往診がある為、状態に応じた治療や口腔内清掃が受けれる体制を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録に排泄時間を記載し、個々の排泄パターンが把握できるように努めている。又、極力トイレでの排泄ができるように、言動からトイレのタイミングを察知する等、個別に排泄方法を考え実施している。	各利用者の排泄パターンを記録し、その情報を職員は共有して、トイレでの排泄を促すことで自立を支援している。その時の声かけも、羞恥心に配慮した方法で行なっている。これにより、入居時から比べ大きく改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を残し、一定期間排泄のない入居者に対しては、腹部ホットパックやマッサージを実施する等している。また、生活の中に体操や運動も取り入れ、排便を促すように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予め予定は作っているが、その時の希望や状態に合わせて変更できる体制を作っている。又、当日に入居者本人と入浴する時間を相談した上で実施する等し、本人の意向を重視するよう努めている。	入浴は、週2回を基本としている。好みの温度に設定し、ゆったりと楽しめる雰囲気を作るようにしている。季節により、柚子湯や菖蒲湯を作り、好みで入浴剤をいれることもある。入浴を嫌がる場合は、時間をずらしたり気分転換を図ったりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活記録と申し送りにより、日々の睡眠状況を具体的に把握し、日中の活動時間や休息時間を調整するようにしている。また、一人ひとりが居心地よく、安らぐことができる環境作りを目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をファイルし、必要に応じて看護師が職員に指導している。また、飲み忘れや誤薬がないように、配薬手順をマニュアル化し、注意するよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活動作場面やアクティビティの場面等、個々の能力に合わせた方法で役割をもってもらい、それが継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や近隣での買い物以外にも、行事の一環として、大型スーパーマーケットへの外出や外食する機会も設けている。また、地域のふれあい喫茶や家族にも協力を求めて、馴染みの人たちと外食に出掛ける方もいる。	外出を嫌がる利用者もいるが、できるだけ外気に触れるように心掛けている。日常的には、近くの公園、スーパー、ホームセンターへの買い物などに、少なくとも3日に1回は出かけている。ふれあい喫茶、地域の祭り、花見など特別な外出もある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の持ち込みは不可としている。但し、お金を持つことや使うことを必要としている入居者に対しては家族と相談の上、所持してもらい必要に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話は日常的に掛けてもらう支援は行っているが、現在希望する入居者はいない。また、手紙に関しては今までも希望する方はいなかった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼リビングは特に照明や温度、テレビの音にも配慮し、入居者皆様が自然と集まるような居心地の良い空間となっている。また、フロアには季節に合わせた装飾をする等し、屋内にいても季節を感じてもらえるような演出をしている。	居間は明るく清潔で、ゆったりとしている。壁には四季を感じる手作りの作品や、笑顔あふれる行事の写真が飾られ、楽しく心温まる心地よい良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やテーブルを配置し、くつろげる場所を確保している。また、２人掛けソファもあり、気の合った者同士で過ごせる場所も作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や馴染みのある物等を持ち込んでもらい、入居時の不安を少しでも軽減できるよう家族にお願いしている。又、入居後も必要であれば、家族に持参していただくよう依頼している。	居室は、利用者の好みに合わせた設備を整え、家族の写真や楽しい飾り物で部屋作りをして、居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内すべてバリアフリーで、各所への手摺の設置から、個々の身体機能の状態に合わせた福祉用具を使用する等、一人ひとりに適した支援や工夫を行っている。		